



令和 8 年 9 月 15 日

令和 8 年度 第 3 回 海外物流戦略ワーキングチーム会合を開催 ～ 釜山・鎮海経済自由区域庁 (BJFEZ)、BJFEZ 入居企業協議会と共催で、 「日韓物流フォーラム」として開催 ～

(一社) 日本物流団体連合会 (物流連) は、9 月 9 日(水)、全日通霞が関ビル (千代田区霞が関) において、令和 8 年度 第 3 回 海外物流戦略ワーキングチーム会合を開催しました。

この会合は、物流事業の海外展開に関する課題を官民連携で検討するもので、今回は、大韓民国釜山・鎮海経済自由区域庁(BJFEZ)および BJFEZ 入居企業協議会と共催で、「日韓物流フォーラム」として開催しました。

日本側からは国土交通省および物流連会員企業・団体ほか計 71 名、韓国側からは、BJFEZ および BJFEZ 入居企業協議会の加盟企業ほか 15 社、計 29 名の、合計 100 名が参加しました。

日韓双方の主催者挨拶に続き、日韓それぞれから、釜山港を中心とした物流の取り組みや動向について紹介するプレゼンが行われました。

(以下、登壇順)

1. 主催者あいさつ

- ・ BJFEZ 入居企業協議会 イ・ステ (李樹泰) 会長
- ・ 釜山・鎮海経済自由区域庁 パク・ソンホ (朴性鎬) 庁長
- ・ 釜山商工会議所 ヤン・ジェセン (梁在生) 会頭
- ・ 物流連 河田 守弘 (理事長)

2. 韓国側プレゼンテーション

(1) 「BJFEZ のビジョンおよび重点戦略産業の紹介」

釜山・鎮海経済自由区域庁 イ・ジヨン (李智英) 氏より、釜山港が韓国の産業クラスターの中核となっており、日本企業を含め投資に対する各種優遇・支援制度 (経済自由区域、外国人投資地域、自由貿易地域) が充実していることや、進出している企業の紹介がなされました。

(2)「釜山港の最新動向および発展戦略」

釜山港湾公社 日本代表部 パク・ジェソン（朴濟晟）氏より、釜山港は日本との貿易量が多い中国・東南アジア・北米を中心に多数の航路を保有していることや、適正とされる積載率（70%）を若干上回っているため貨物の待機が一部発生していること、これに対応するため、荷役の自動化、情報化、知能化を進めていること等が紹介されました。

3. 日本側プレゼンテーション

(1)「日韓ダブルナンバーシャーシの概要」

～ 日本と韓国間のシャーシ相互通行による一貫輸送 ～

国土交通省 物流・自動車局 国際物流室 室長 小柳 美枝子 氏より、下関港～釜山港間で行われている日韓双方のナンバーを付けたシャーシの相互通行の経緯や取り組み、その需要等に関する物流事業者へのアンケート調査結果の紹介等がありました。

(2)「日本パレットレンタルのサービスご紹介」

（原題: Japan Pallet Rental Corporation Service Introduction）」

日本パレットレンタル株式会社 執行役員 新井 健文 氏より、同社のパレット事業のご紹介、特に韓国を含む東アジア各国～日本間にも、現地事業者と提携したレンタルパレットシステムが構築されており、韓国にはソウルに拠点を設けていること等が紹介されました。

(3)「日本発グローバル物流における BCP ソリューション」

～ NX 韓国・釜山ハブを活用した新たな物流戦略 ～

日本通運株式会社(NX) 常務執行役員 安藤 恒夫 氏より、近年の大規模災害や物流の混乱を踏まえ、物流コストの多少の削減よりも、代替ルート等の確保による物流の BCP が重視される流れになっていること、そうした流れを踏まえ NX として、日本各地の貨物を釜山港でクロスドックするネットワークを構築していること等の紹介がなされました。

会合途中で記念撮影を行い、盛会のうちに終了致しました。



（全員で記念撮影）



(挨拶をする河田（理事長）)



(全景：奥が韓国側、手前が日本側出席者)